くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2021年6月1日
(No.102)

2021
＊
6月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（30）

新河岸川（一級河川新河岸川の起点）

前号で取り上げた田谷堰の下流は 1934（昭和 9）年に新規開削された川。一方、田谷堰の上流は以前から流れていた旧赤間川の流路。これをさかのぼると、菓子屋横丁の裏手を通り、住宅地の中の細い流れとなる。やがて住宅地を抜け東上線や川越線と交差すると、農地と新興住宅が混在する風景の中、鉄板で囲まれた殺風景な水路の傍らに『一級河川新河岸川起点』と彫りこんだ石標が立っている（写真右隅）。東上線川越市駅から西に直線で約 400m。ここが現在の新河岸川の起点で、北区岩淵で隅田川に合流するまでの延長は 34.6 km。ここから上流の旧赤間川の現在の正式名称は『入間第二用水』となる。（天田 眞）

ＮＰＯ法人エコシティ志木

2020 年度の活動報告

●2020 年度の活動

2020 年度は、新型コロナウイルスまん延の影響がすべての活動に及びました。特に、２回にわたる緊急事態宣言の期間は活動を休止しました。それ以外の期間は原則として従来通りの活動を行いましたが、中止になったものも多くありました。

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ:「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の２か所の斜面林の日常管理作業（清掃、落葉掃き、下刈、中低木の除伐、急斜面保護、希少植物の保全など）を行いました。（計 31 回）

②河川敷の清掃：柳瀬川右岸志木中学校付近と新河岸川右岸富士下橋下流の２か所で河川敷のごみ拾いを行い、県の「川の国応援団」の活動として報告しました。（計 13 回）

③外来植物駆除事業

(a)柳瀬川・外来植物駆除作戦：柳瀬川右岸の志木中学校付近でのオオブタクサの抜き取り作業を６月と８月に行いました。（計２回）

(b)いろは親水公園「ヨシ･オギ群落保全地」保全作業：カヤネズミやオオヨシキリが棲むカヤ原の保全のため、６～８月にオオブタクサの抜き取り作業を行いました。（計５回）

◆調査、研究事業

①身近な川の一斉調査:「新河岸川水系」と「全国」の一斉水質調査に参加し、６月７日に市内７か所の水質を調査しました。（１回）

②市内いきもの調査：市内各所で植物を中心とした調査を行いました。（計６回）

また、志木中学校前では水生生物調査を兼ねて柳瀬川水族館を開催しました。（計４回）

◆観察会及び学習・教育事業

①柳瀬川であそぼう：親子向けの魚捕り体験等の川遊びイベントですが、新型コロナウイルス感染防止策が難しいため中止しました。

②自然観察会：春・冬は緊急事態宣言中のため中止し、秋に柳瀬川左岸の水谷調節池予定地で開催しました。（１回）

③「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」：いろは親水公園「ヨシ･オギ群落保全地」で毎年行ってきたイベントですが、大幅に規模を縮小して開催しました。（１回）

④ぶらり散歩:「新河岸川ぶらり散歩」の第２回として、川越五河岸跡など、新河岸から川越まで歩きました。また、宗岡の大小合併門樋や総囲堤の一部など､254 バイパス工事で失われる部分の見学を行いました。（計２回）

⑤小学生の環境学習への協力：小学校の総合学習や社会科で講師を務め、柳瀬川や新河岸川の河川敷で授業を行いました。（計３回）

⑥市民講座等での講師：埼玉県が県内各所で開催している「埼玉未来大学」で講師を務め当会の活動事例を発表しました。（５回）

⑦ボランティア体験者受け入れ：社会福祉協議会の「地域ボランティア団体体験プログラム」で体験者を受入れました。（1 回）

⑧イベントへの参加･出展:毎年数カ所参加してきましたが、今期は新型コロナウイルスの影響で全て中止となりました。

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行:会員向け本紙(12 ページ)と一般配布用イベントカレンダー(4 ページ)を発行しました。（計４回）

②ホームページ管理：エコシティ志木ホームページ及びブログで情報発信を行いました。

③活動紹介展示：毎年数カ所で展示を行ってきましたが、今期は全て中止となりました。

④リーフレットの作成：当会の活動を写真で紹介し、ＳＤＧｓへの取り組みも表示したリーフレットを作成しました。

◆エコミュージアム事業

①志木まるごと博物館 河童のつづら:ホームページの維持管理を続けました。

●2021 年度の活動

新型コロナウイルスによる影響がいまだ続いておりますが、今後の情勢に対応して活動していきます。

（天田　眞）

新河岸川のあらまし（6）

天田　眞

伊佐沼方面へ向かう旧赤間川

川越市街地東側に新しい新河岸川を開削し赤間川につなげたため、伊佐沼へ向かっていた赤間川は普段は水が流れなくなりました。しかし、今でもその旧赤間川の大部分（田谷堰に近い部分以外）が雨水排水路として残っています。

田谷堰の北部に残る旧赤間川の水路

新河岸川の最上流部となった赤間川

田谷堰から上流の赤間川の現在の正式名称は新河岸川です。田谷堰から菓子屋横丁の裏手辺りまでは両岸が垂直なコンクリート護岸ですが、川の中を散策できるようになっています。やがて住宅地の中の細い水路になり、しばらく進んで東上線・川越線と交差した後、『一級河川新河岸川』の起点に達します。

【表紙の文と写真を参照】

住宅地の中を流れる新河岸川最上流部

赤間川をさかのぼって源流へ

新河岸川の起点から上流へも延々と水路がつながっています。この部分は赤間川とも呼ばれますが現在の正式名称は『入間第二用水』で、元は江戸時代からの農業用水路です。

水路構造は基本的にコンクリート三面張りで、さかのぼっていくと、武蔵野台地崖線の直下や水田地帯の中などをひたすら南西方向に進み、川越市から狭山市へ、さらに入間市に至り、入間川の笹井堰で取水されています。

コンクリート三面張りの入間第二用水

途中までは新河岸川流域ですが、最上流は入間川流域に入り、また、青梅扇状地から流れてくる霞川（古多摩川の一つ）の下を伏せ越し（逆サイフォン）でくぐっています。

笹井堰が現在のようなコンクリート構造になったのは 1939（昭和 14）年で、用水路の最上流は堰堤右岸脇のゲートで取水しています。

赤間川沿川では最盛期には 20 軒以上の水車があったということです。

入間川の笹井堰を右岸下流側から見る

志木の自然観察(春)（4月18日(日)）　～西原ふれあい第三公園～

畠　光男

前日来の雨は明け方前には上がり、さわやかな朝となり絶好の観察日和となりました。一般参加者には若い人が多く、小学3年の男児と年長組の女児を連れたお母さんもいるなど幅広い世代、総勢18名での観察会となりました。

サミットストア前での集合後、「西原ふれあい第三公園」までの道すがら、天田代表から志木ニュータウンが開発される前の軟弱な農地についての説明や、「大塚大六天神社」の杉の木伐採にまつわる祟りなど興味深い話がありました。

5分程で到着した公園は、今は花の盛りを過ぎてしまいましたが、1月から4月にかけて、ロウバイ、ウメ、ミツマタ、アセビ、サンシュユ、レンギョウ、シデコブシ、ハナモモ、ユキヤナギ、ヤマザクラ、ヤマブキなどが斜面を中心にして色鮮やかに次々と咲いていきます。私がエコシティ志木に加入し公園整備の作業に携わる前も、ウオーキングコースの一つとして花の時期はここへの立ち寄りが楽しみでした。

この公園は通称「西原斜面林」にありますが、武蔵野台地を柳瀬川が削り取った崖線に沿っており、住宅開発に伴う消滅の危機から免れたのは本当に幸いでした。縄文の昔から人が住み着き今に至る貴重な自然環境は出来るだけ守っていきたいものです。 近隣の家が生活用水にも利用していた斜面林西側の湧水はニュータウン開発に伴う道路造成時に埋められたようですが、その後市民グループが掘り出したことも本当に良かったです。

公園中央部の東屋がある辺りから南側は12年前の公園化工事で植樹された樹木が大半ですが、東上線に近い北側部分は昔からの樹林が残され、常緑のシラカシ、落葉のケヤキ、ムクノク、エノキなどの高木を中心に多種の常緑樹・落葉樹が混在しているようです。半日蔭となる樹林内ではイチリンソウ、タチツボスミレ、ジュウニヒトエなど在来種の野草が咲いていました。キランソウやクサノオウなども観察できました。

一方、外来種の野草ではカラスムギやイヌムギが繁茂し、最近はオオアラセイトウ(諸葛采)も勢力を拡大しているようです。

また今日は、羽化したばかりの小さなナナフシモドキ、マユミの木からぶら下がっているミノウスバの幼虫、ナガメの幼虫なども参加者が見つけ興味深そうに観察していました。

［写真：青木　明雄］

カヤネズミ原っぱの外来植物駆除

興村幾子

２０２１カヤネズミ原っぱの外来植物駆除の第1回目は４月１４日（水）でした。当日は生憎の雨模様でしたが参加できる人だけでも集合という呼びかけで６名が参加されました。雨模様ということもあり、現状確認ということで作業はなしとなりました。
昨年も新型コロナにより緊急事態宣言で４月５月の作業は中止となりました。

４月にここに来たのははじめてで、いったいどのような状態なのかと興味津々でいつもの集合場所の富士下橋に立ってみると一面に生い茂る草はなく、広々とどこまでも見渡せる原っぱがありました。

皆で現状確認しながら、オオブタクサはまだかなり小さく地面に張りついているような感じでしたが、湧き水の流れの辺のものは５０cm 位丈がありました。そこにはクレソンも生えていました。色々な草花を見つけて何の花でしょうと質問したり、桑の木や胡桃の木を見て実が生るのはいつごろでしょうなどと、まるでピクニック気分で楽しい時を過ごしました。

その後、新型コロナまん延防止ということで今年も５月末まで活動中止となりました。今年こそは意気込んでおりましたのに残念です。

そこで毎朝ウオーキングしている柳瀬川のふれあい橋から志木大橋まで土手を歩きながら河川敷の草や木々の観察しながらカヤネズミ原っぱのこと考えています。この河川敷のオオブタクサは全体広がっているのではなく川よりに生えていてあまり大きくならないようです。特に駆除作業もしていないようです。川の対岸はオオブタクサを含めいちめん草に埋もれています。ここには桑の木が川に沿って生えており、今　実がぎっしり付いています。私も昨年までは知らなかったのですが、ウオーキングの途中で教えてもらいました。桑の実はスーパーフードとして話題なのでウオーキング中の人に質問されたりします。肩程の草をかき分けて桑の実取りに行けるのもカヤネズミ原っぱの外来植物駆除に参加してどんな草むらにも入っていけるようになったからです。

後半はカヤネズミ原っぱの外来植物駆除とは関係ないことを書きましたが、私はこの活動に参加して視野も行動範囲も広がったことに驚きと喜びを感じております。今もって植物や昆虫の名前は覚束ないですが。６月７月８月と駆除作業が再開できること期待したいと思っております。

昨年の作業の様子

［写真：青木　明雄］

生きもの調査コース 中宗岡・下宗岡の 自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長 青木 明雄

今回は、「志木生きもの調査」の中宗岡・下宗岡のコースをご紹介します。スタート地点は、宗岡公民館（S）です。

宗岡公民館を出て南に進み、１つ目の角を右に曲がり、次の角を左に曲がるとすみれ児童公園があります。この通りは、宗岡公民館通りとの間に水路があり、水路を挟んで並行している通りです。この通りは、ヤオコーの所の宮戸橋通りを超えて、宗岡第三小学校に突き当たります。

すみれ児童公園

すみれ児童公園を出て、南に向かって住宅街の中を歩いていきますが、交差点のところには、まだ田んぼが残っています。更に進むと、ヤオコーの手前で、斜めにバイパス道路の予定地が横切っています。今は、いい緑地となっていて、この中に、放置自転車置き場も、隠れています。この先の宮戸橋通りを左に曲がり、宗岡公民館通りとの角を反対側の右に曲がります。

バイパス予定地が横切っている

この道も直ぐに、バイパス予定地を横切り、畑の中を抜け、江戸時代の旧堤防にぶつかります。ここを横切るバイパス予定地の左手部分には、モデル道路が作られています。片側２車線の外側に樹木が植えられ、更にその外側に自転車・歩道が整備された道路となっています。この道路が、ヤオコー横を通り、宗岡福祉センター脇を通り、浦和所沢バイパスを越えて、富士見バイパスに繋がります。いろは通りの予定地に当たる和菓子店の解体作業も始まりましたので、志木市内のバイパス道路の整備が急ピッチで進むのではないかと思います。

旧堤防に出て、宗岡第三小学校に向かいますが、この辺りは、畑や田んぼ等の農地などが広がり、

緑の多いところです。小学校の校舎とグランドの間を抜ける土手は桜並木となっていて、春は、とてもきれいです。
　ここで折り返し、宗岡第二中学校に向かいます。

　宗岡第二中学校前も桜並木となっていて、春は、とてもきれいです。桜並木の下は、駐車場になっていて、夏の暑さを和らげます。中学校内に流れて行く赤野毛排水路からの篭嶌樋門は、埼玉県内唯一の石造りのアーチ型樋門です。桜並木が切れる辺りにあるイロハモミジは、秋には真っ赤に染まり、とてもきれいです。その先を右に曲がると下ノ氷川神社に出ます。この神社は宿の氷川神社と向かい合っています。大きな銀杏の木があり、秋になると沢山の銀杏を実らせて、落ちてきます。

下ノ氷川神社

神社のところは、もともと低いところなので、社殿等の部分は、水塚のように少し盛り土をしてあります。昔から住む近くの人からは、自分のところの畑の土を運び盛り上げたと聞きました。神社の東側は、新田堤に沿って、広い農地が広がっています。下ノ氷川神社から戻り、新田堤を超えたところに砂村稲荷神社があり、隣の広場が新田治水広場です。この広場

新田治水広場

の前の道路は、ほぼ毎年のように、台風の時には冠水すると、近くの人が話していました。この広場も、水をためる役目があるようです。広場の横には、池のように水がたまったところがあり、周囲にはいろいろな野草が生えていました。
新田治水広場を出て、庚申塔を左に曲がり、樋之詰児童公園に向かいます。途中の水路の桜並木もとてもきれいです。樋之詰児童公園の隣には、田んぼがあります。公園には、クスノキ、ケヤキ、ク

樋之詰児童公園

砂村稲荷神社

ヌギ、イチョウ等高木があり、またシャリンバイ等の低木等と併せて、公園の周囲を囲っています。
　このあとは、宗岡セレモニーホールの脇を通り、宗岡公民館通りに抜けて、出発点の宗岡公民館に戻ります。

志木の生きもの調査

～4月12日　柳瀬川と水谷田んぼ～　　参加者：8名

庭野　惠子

予定されていた、いろは親水公園左岸(3月)、志木ニュータウン(5月)での調査は、それぞれ新型コロナ感染防止のため中止となりました。

4ヶ月ぶりの調査ですが、まず、志木中前の柳瀬川河川敷では、セイヨウカラシナの菜の花が満

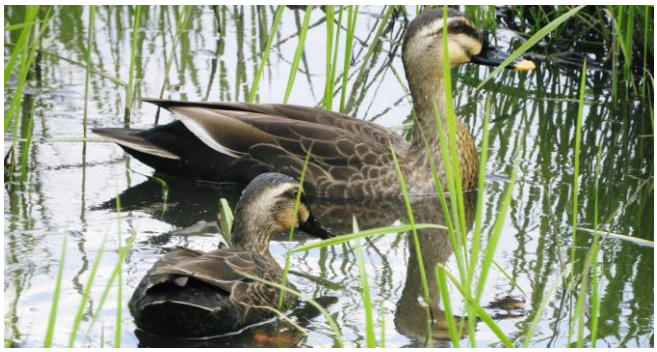
［写真：青木　明雄］

開で、オオアラセイトウ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、ナヨクサフジ、キツネアザミ、ケキツネノボタン、オオカワヂシャなど、お馴染みの春の野草の花々が咲いていました。珍しかったのは、優しいラベンダー色の花のセリバヒエンソウ(芹葉飛燕草)です。中国原産の、デルフィニウム属の外来野草で、大群生すると厄介な存在のようですが、花が美しく、思わず膝をついて見入ってしまいました。イチゴツナギという名称は、

［写真：青木　明雄］

昔子供たちが野いちごを摘み、この草の茎に通して持ち運んだという伝承によるそうですが、その茎がざらつくことを教えて頂き、妙に納得しました。

12月とほぼ同じ場所の調査ですが、柳瀬川左岸水谷田んぼ工事中のため、高橋を渡って直進、水谷東小脇で左折、水路沿いの道路に出ました。小学校裏手には、桑が青い実をつけ、トウカエデやニセアカシアの若葉が揺れ、マコモやキショウブが生えた水路ではカルガモが泳いでいました。



［写真：青木　明雄］

一面レンゲの田んぼには、キツネアザミ、トキワハゼ、ハハコグサ、イヌガラシ、コオニタビラコが花をつけ、野草園さながらで、揚げヒバリも見ることができました。また一面ハッカが群生している場所があり、ヨシやガマ、ノイバラがはびこる休耕地もあります。その縁には、小さな白い5弁花のノミノフスマや、唇花をつけたムラサキサギゴケ、見逃しそうに小さな黄緑色の花のヤエムグラなどが群生して、それぞれの美しい世界を見せてくれています。年一回の発生のため、あまり見られないというツマキチョウにも一瞬出会うことができました。

当NPOで里山の手入れを行なっている、西原斜面林やいろは親水公園のこもれびのこみちも、生きもの調査の対象に含まれています。

おなじみの場所での調査では、作業中は気付かないさまざまな発見があり、逆に新鮮です。毎年春から夏にかけてオオブタクサの抜取りを行う、ヨシ・オギ群落保全地でも、まだ丈高い草が生い茂る前の野原には、さまざまな野草の花々が見られました。　来春にはこちらの生きもの調査を行う計画もあるようで、とても楽しみです。

①**コウチスズメ**［林 秀樹］
4月6日 富士見市榎町
②**サワフタギの花**［天田 眞］
4月25日こもれびのこみちの斜面林
③**クロツヤミノガ♂**［林 秀樹］
4月28日富士見市榎町飼育中羽化
④**クロツヤミノガの羽化殻**［林 秀樹］
③の羽化後の殻
⑤**アオサギとカワウ**［畠 光男］
4月28日 柳瀬川。アオサギが魚を捕ったところ
⑥**アカボシゴマダラの羽化**（特定外来生物）
5月1日西原斜面林のエノキの幼木
⑦**トビ**［松田 勝正］
5月4日 上宗岡自宅ベランダから
⑧**コゲラ**［畠 光男］
5月5日 敷島神社
⑨**ウラシマソウハバチ幼虫**［天田 眞］
5月8日西原斜面林で多数の幼虫がウラシマソウを丸坊主にした
⑩**カブトムシの羽化**［天田 眞］
5月10日
西原斜面林
ふつう
６月から７月頃なので、非常に速い

❶コウチスズメ

❷サワフタギの花

❸クロツヤミノガ♂

❹クロツヤミノガの羽化殻

❺アオサギとカワウ

❻アカボシゴマダラの羽化

❼トビ

❽コゲラ

❾ウラシマソウハバチ幼虫

❿カブトムシの羽化

会員紹介　本間　敏文さん

こんにちは、本間です。日頃は皆様にお世話になり感謝申し上げます。

さて、私は永年に亘り、商社で営業活動をしていたこともあり、正直言って自然環境にはまったく興味がありませんでしたが、商社を早期退職し、数年間、メーカーにて働いていたこともあり、ここで自然環境に関心を持ち、退職後、何気なしにパソコンで検索していましたら、日本自然保護協会の自然観察指導員の講習会があることに気づき、とにかく参加しようと思い、同講習会に参加し、これがきっかけで自然環境に興味を持ちました。

その後、東京での自然観察会で活動していましたが志木の自然保護団体での活動を切り替えようと思い、偶々、エコシティ志木との出会いがあり、今日に至っております。

話しは変わりますが、１５年前、芝の東照宮にあります巨樹のイチョウとの出会いがあり、ここで巨樹のダイナミックな生き様に惚れてしまい、それ以来、全国、海外の巨樹に会いに行くようになりました。ここで、世界で一番大きいと言われる巨樹を紹介します。（厳密には体積で一番大きいです。）

ヒノキ科のセコイアデンドロンです。樹高は８４ｍ、幹周りは３２ｍ、樹齢は２２００年。アメリカのカリフォルニア州のセコイア国立公園にあります。一度会いに行かれてはいかがでしょうか。

☆会員状況

２０２１年更新済（５月３０日現在）
正会員（個人）　３２
正会員（団体）　２
賛助会員　１

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★２０２１年度の年会費は、郵便振替（振替番号　00510-4-13225）にて納入をお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部
むさし証券株式会社

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体
ネットワーク
登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティー協議会
志木市社会福祉協議会
認定 NPO 法人さいたま NPO センター
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市教育サポートセンター

情報満載！
当会のホームページ

ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/

志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

ご連絡他

事務局長兼広報部長
青木 明雄

１．通信１１ページについて

志木の昆虫記は、前号の４６回を以って終了とさせていただきました。今回の１０２号からは、エコシティ志木の活動に関連する自然や環境などの話題や用語や豆知識他、志木市の出来事などについて取り上げて、掲載していきたいと思います。

新規に参加された方が、初めて耳にしたり、触れたりするような事柄もできるだけ取り上げて、少しでも関心を深めていただくことに繋がればと思います。

今回は、柳瀬川隣接の水谷田んぼで調節池の整備が行われていることもあり、治水をテーマに掲載させていただきました。

ここに取り上げたい項目がありましたらメール等でご連絡いただければと思います。

２．「まん延防止等重点措置」の延長に伴う対応

エコシティ志木としては、「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」が発出されている期間でのイベントは、全て中止としております。発出期間が延長された場合におきましても、同様の扱いとなりますので、よろしくお願いします。参加につきましては、感染防止等の注意事項を良く確認の上、参加してください。

３．その他

今年は、いろいろな花の開花が、いつもより早く感じます。私の気のせいでしょうか？

逆に、いつもならとっくに帰ってしまった冬鳥が遅くまで志木市内に留まっていました。

５月９日新河岸川のヒドリガモ

柳瀬川と新河岸川では、５月に入ってもコガモとヒドリガモを見ることができました。

『総合治水』と『流域治水』

天田 眞

志木で見られる治水の歴史

志木のいろは橋下流の左岸には治水の歴史を示す三代の堤防が並んでいます。最も左側が江戸時代の惣囲堤で、蛇行が多い新河岸川から十分距離をとって村を取り囲むように築いた堤防。一番右側が明治 43 年の大洪水後の改修工事で、直線化した川ぎりぎりに築いた昭和初期の堤防。中央の現在の堤防は、都市化と共に多発した水害に対して川幅を拡げ高さを増した総合治水時代の堤防です。

都市型水害と総合治水対策

首都圏に位置する新河岸川流域では、高度成長期に市街化が急速に進み農地や緑地が減少すると、大雨の時に雨水が低地や河川に急激に流れ込むようになる一方、水田地帯で遊水機能を持っていた低地も開発され居住地域になったため、内水氾濫や越水などの水害が多発するようになりました。

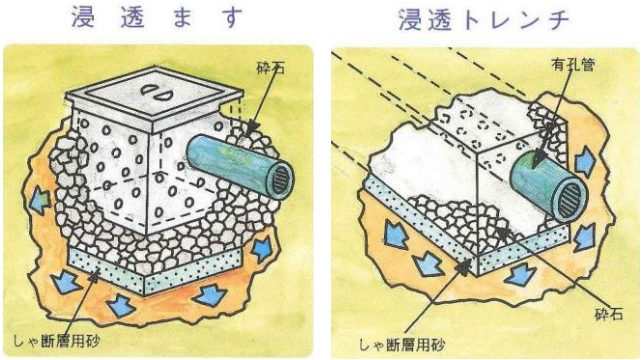
そこで、1970 年代の終わりころに出てきた考えが『総合治水対策』です。河川断面の拡大や調節池・放水路・排水機場などの治水施設の整備だけでなく、流域全体での浸透貯留施設整備や土地利用規制などによる保水機能の確保。雨量・水位などの情報活用や水防体制の強化、ハザードマップの公表などの日頃の広報活動といったソフト対策までを含めた総合的な治水施策です。

新河岸川流域の治水施設整備

新河岸川流域は 1980 年に総合治水対策を行う河川に指定されました。この頃からの主な治水施設整備には次のようなものがあります。

●河川断面の拡大：川幅の拡大、堤防のかさ上げ、河床の掘削 ●新河岸川の水を荒川に放流する施設：新河岸川放水路と南畑排水機場、朝霞水門 ●洪水時に川の水を流入させる調節池：寺尾調節池や朝霞調節池（新河岸川）、金山調節池や水谷調節池（柳瀬川）など ●川に排水する前に一時貯留する調整池：志木市民体育館の地下や大規模建物に設置義務のものなど ●学校のグラウンドを低くする校庭貯留 ●一般住宅でもできる浸透桝や浸透トレンチなどの雨水浸透施設や天水桶などの雨水貯留施設の設置（市による補助あり）

現在工事中の水谷調節池（志木中学校の対岸）



浸透桝や浸透トレンチ（志木市ホームページより）

新たに始まった流域治水の考え方

近年、気候変動に伴い、毎年のように豪雨災害が多発するようになりました。こうした事態に対し、流域に関わるあらゆる関係者が協働し流域全体で行う総合的かつ多層的な水害対策＝『流域治水』の推進が始まりました。気候変動による降雨量の増加を考慮し、氾濫を防ぐ・減らす、被害対象を減少させる、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハードとソフトで進めようというもので、個々の手法の多くは総合治水にあったものですが、都市化した流域だけでなく、もっと広くあらゆる流域を対象に、国・県・市・企業・住民が協働して推進しようという施策です。

巨　樹　と　の　出　会　い

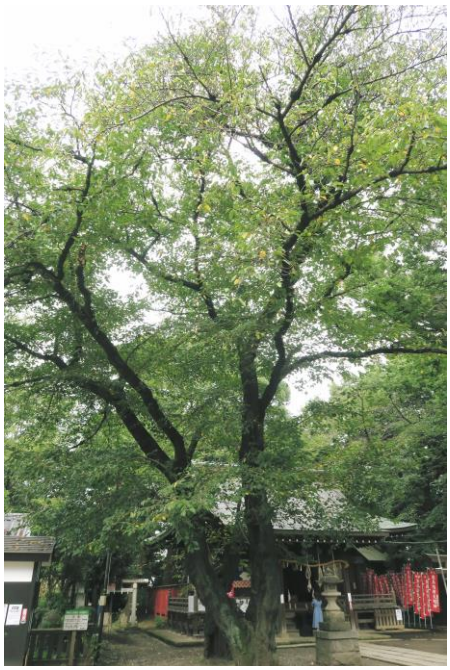
《２》　志木市の巨樹たち・・その７

本間 敏文

前回は、敷島神社のクスノキを見てきましたが、敷島神社にはもう１本の巨樹があります。

その巨樹はソメイヨシノです。ここのソメイヨシノは幹周り３．９２ｍと巨樹では小粒ですが、ソメイヨシノとしてやや大きい方です。本殿の前に構えており中々素敵な樹で、特に欠陥もなく元気な巨樹です。さて、ソメイヨシノの巨樹は少なく、全国で２６５本しか登録されておりません。埼玉県では何と６本しかありません。その内の１本がこの樹です。　そして、埼玉県で一番大きいソメイヨシノです。

【敷島神社のソメイヨシノ】



ところで、どこへ行っても桜はソメイヨシノだらけで、どうしてこんなに多いのかという疑問をお持ちの方が結構多いようです。どうやら、明治政府が植えるように推奨したと言われています。

また、急速に増えた理由として、サクラ類の中でも最も成長が早いようです。ソメイヨシノの寿命は５０～６０年と言われていますが、青森の弘前公園にありますソメイヨシノの樹齢は１００年以上もあります。また、日本最大幹周のソメイヨシノも同公園にあり、幹周りは５．４ｍもあります。是非、会いに行って下さい。感激しますよ！

【青森・弘前公園のソメイヨシノ】

編集後記

◇今年も新型コロナの影響で、中止せざるを得ないイベントも多く、その分、イベントの様子を伝える件数が少なくなってしまいました。何とか、早く収束し、エコシティ志木の元気な活動をお伝えできるようになればと願っています。　（青木　明雄）

エコシティ志木通信
第102号 2021年6月1日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338（天田貞）
URL http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com